

世代や人種、関心の分野、文化的な背景が異なる若者が互いに学び合う、教育プログラム「HLAB TESHIO」が8月25・26日、道北の天塩町で開催されました。2011年から始まった取り組みは、今夏も東京、徳島、長野などで実施されています。トライアル版ではありましたが、今回の天塩町での開催は道内初です。これは7月に副町長に就任した、元外務官僚の齋藤啓輔さん(34)の人づくりにかける思いがあればこそでした。

クローズアップ②

天塩の地で世界の若者が出会う ～HLAB WORKSHOP in TESHIOレポート～

まちづくり観光デザインセンター かとうけいこ

グローバルな視点を踏まえたリーダーシップを身に付け、今後の進路選択の可能性を広げるきっかけにしてほしいという思いで作った当プログラムは、①ワークショップ②フリーインタラクション(自由な雰囲気の中、社会人や大学生から進路選択のアドバイスをもらえる)③フィールドワークで構成されています。ハーバード大学、オックスフォード大学など海外から15人、東京大学、慶應義塾大学、北海道大学などから14人、天塩町、札幌市、帯広市などから参加した10校34人の高校生たちが、合宿しながら交流を深めました。ワークショップで、臆することなく英語を使う高校生は実に頼もしく、大学生が自然な形で発言を促し、笑顔と大きな動作で共感をアピールする様も印象に残りました。今回は「地方の課題にどう向き合うべきか」がテーマで、過疎、雇用の確保、空き家対策などについて、お互いを尊重しつつ異なった方向から議論を深めていきました。会場全体が高揚していくようなエネルギー

に溢れた時空間に包まれました。

参加者の声を紹介します。ジャーナリスト志望のコロンビア大生は、「緑の丘やきれいな風景に見とれてしまった。食も素晴らしく、ここはパラダイス！優しさをくれたサポートスタッフや、地域への思いを持った高校生との出会いがあってこそこのパラダイスだと思う。そして、私が今経験しているように、生まれ育った町、北海道、日本を出て旅をしてください」と語りました。地元天塩高生は「24時間ほぼ英語漬けの時間は刺激的。海外の大学生はもちろん、英語力が高い道内の同世代と出会い夢を語り合えたことも良かった。今後は、自分の目標に向かい挑戦し続けようと思います」。

共に学び合う環境こそが、総合的な考える力を身につけるリベラルアーツ(教養)教育の本質であり、イノベーションはこうした場所から生まれます。人づくりこそ地域づくりの基本であることを示してくれた熱い2日間でした。

